

巻頭言

作業療法教育とリスクコミュニケーション

大阪医療福祉専門学校 林 亜遊

リスクという言葉聞いてなにを思い浮かべるでしょうか？

リスクと聞くと…危険、事故などの言葉が想起され、身が引きしまり責任感が高まると共に、不安感や恐怖心などが生まれてくる人もいるかも知れません。医療現場においては特に医療に起因する事故はできる限りなくしていくこと＝ゼロ・リスクを目指すべきです。そのため、リスクは管理（マネジメント）していく必要があります。

他方、作業療法は、「人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である（作業療法士協会, 2018）」と定義されます。作業療法教育の役割は、そのような専門職である作業療法士を育成していくことでしょう。このように作業療法教育とリスクについて考えたとき、リスクとは直接的なあるいは本質的な関連が少ないようにも感じます。

私は養成校教育で学生たちにリスクについて教育を行っています。それは環境リスクについて考える授業です。学生たちはリスクの考え方について講義を受けた後、自分たちの自宅の写真を撮ってきます。自宅の写真ですから、学生たちにとっては馴染みの深い、違和感のない、日常場面です。ところが、自宅の写真についてみんなでリスクを考えていくと、最初はリスクを感じなかった学生たちが、自宅の中に潜むリスクについて語り始めます。「トイレの手すりの位置が…」、「普段ここにはお父さんが座って…」、「いつもここで家族みんながぶつかるんです」と語る学生たちは生き生きとして、そしてそこにはありありとした生活が浮かび上がります。リスクについて話し合うことは、危険について考えることであると同時に生活についてリアリティをもって考えることに繋がると感じます。

リスクについて話し合うことをリスクコミュニケーションと呼びます。リスクコミュニケーションは「個人、機関、集団間での情報や意見のやりとりの相互作用的過程（National Research Council, 1989）」と定義されています。作業療法士が対象者と生活場面について話し合うときに、ゼロ・リスクを考えることは現実的に限界があります。いくら病院の中のリスクをゼロにしても、家の中、近所、外出場面において対象者に合わせてリスクをゼロにすることができないからです。作業療法士はもっと積極的にリスクについて話し合っていくことが必要だと感じます。それは、リスクを伝え、行動を制限させるのではなく、リスクを踏まえ、どう生活していくか、つまり生き方に関する意思決定に関与していくことであると言えます。

続・作業療法の視点－作業を通しての健康と公正において、作業療法の可能化の基盤の6つの要素の内一つに「選択、リスク、責任」が挙げられています。これは自分で選び、リスクを引き受け、結果の責任をとるときに、作業の影響力が高まる（吉川, 2017）ということです。生活場面においてゼロ・リスクが叶わないのであれば、対象者はリスクにさらされながら生活をしていくこととなります。リスクについて専門的知見と共に対象者の生活の再建に向けて共に取り組む存在としての作業療法士はこれから益々求められるでしょう。そのためには、養成校教育、新人教育、生涯教育において、リスクコミュニケーションの概念を積極的に取り入れ、リスクと共に歩む専門職としての作業療法士の育成が求められると考えます。